

「組織で働くための精神分析-そこで生き延び貢献する術として-」

ベーシックコース

まず、「組織で働くための精神分析」と銘打っていますが、精神分析的なのはその学び方にあります。したがって、参加に当たっては精神分析の素養は必要ありません。「今-ここで」の体験を重視して、参加者全員で学びを作り出していきます。その意味で、本セミナーは既存の知識を提供することに留まらず、みんなで新たな知を生み出すワークショップです。生産的な議論のためには、参加者の経験に基づく発言が欠かせません。ですので、組織で働いている、困っている、あがいているなどの経験を他の参加者と話し合い、一緒に考えてみたいという気持ちをお持ちの方を、歓迎いたします。ご参加をお待ちしております。

講師の一人である私（白波瀬）は、最近自分のことを「組織を『診る』精神科医」と名乗ることがあります。ただ、組織を診るといっても、組織そのものを診ているわけではありません。組織を「診る」ことを通してそこに所属する人たちがより健康的に働けるようになることに取り組んでいきます。また、「診る」という言葉を使っていますが、その組織が「病気」だという訳ではありません。組織が機能不全状態なのはある意味普通です。なので、いわゆる「診断」をしたり「治療」をしたりするわけではありません。その作業は「医療」というよりも「フィールドワーク」に近いと考えます。組織の人々と協働しながら、働く人たちの健康を阻害する組織の課題を見つけ出し、その解決方法をつくり出していきます。という次第ですので、別に精神科医でなくても、さらにいえば医師でなくても取り組めるものです。

「部屋の中の象 elephant in the room」という英語の慣用句があります。大きな象が部屋の中にいたら、誰もすぐに気づくはずですが、にもかかわらず、あたかもそんなものはいないかのように振る舞ったり誰もその存在に触れなかったりする状況を表す言葉です。見て見ぬふりをしているといってもよいでしょう。部屋の中の象という喩えを使うと、どの組織にもこうした「象」が存在していて、それによって組織の人たちは多くの制約や影響を受けていることをイメージしやすいと思います。私は、組織の人たちが「象」をみえるようになれば、そうした制約や影響が少なくなりその組織は働きやすくなると考えています。そのため、この作業を「象をみえるようにするフィールドワーク」と表現することがあります。現在、私は自らの所属する病院で職員たちとさまざまな活動を行いながら、「働きやすい病院」をつくることに取り組んでいます。

セミナーでは、その経験などを紹介すると共に、参加者のみなさん自身の経験も聞きながら、組織で生き延びる、そして組織に貢献するための術を体験的に学んでいただくことを目指します。

セミナーは、会場と Zoom のハイブリッドで開催します。また、講義部分は録画して参加者のみなさんに限定公開しますので、参加がかなわない場合も後日視聴することができます。

1. 対象者

このテーマについて、みんなで話し合ってみたい、考えてみたいと思われる方を対象とします。

医師、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士をはじめとする、「組織で働くための精神分析」に興味をもっておられる、守秘義務のある臨床家の方々。
また、教員や人事担当の方など、人を育てマネジメントする役割として組織で働いておられる方々も対象とします。参加にあたり、セミナー内の心理的安全性を保つ目的で、セミナー内で話し合われたことを口外しないことを確認させていただきます。

2. 募集人数

20名

3. 講師（敬称略）

白波瀬丈一郎（東京都済生会中央病院）、三浦有紀（東京都済生会中央病院）
ゲストスピーカー

9月14日 川上慎太郎先生（ここあすクリニック市ヶ谷／東京大学）

10月12日 中西桃子先生（甲南大学）

11月16日 岡田暁宜先生（名古屋大学）

4. 日程

2025年5月から2025年12月（8月は休み）の第2日曜日、全7回
5月18日（第3週）、6月8日、7月13日、9月14日、10月12日、
11月16日（第3週）、12月14日

6. 時間

午後1時半から4時半まで

7. 参加費

35,000円

8. 開催方法

小寺精神分析記念財団 セミナールーム
およびZoomによるハイブリッド開催

9. 申し込み方法

下記URLまたはQRコードより、フォームに入力してお申し込みください。

<https://forms.gle/sghodeKKR5pvYKNx7>



申込期間：2025年3月11日（火）～4月27日（日）

10. 問合せ先

小寺記念精神分析研究財団 事務局： kodera.fps@gmail.com